

この人に聞く・児玉浄信さん

家づくりから安らぎの 庵づくりへ



プロフィール

- 1949年 新発田市菅谷石川の農家に生まれる
- 1967年 県立新発田商工高等学校建築科卒業
- 1967年 新潟市内建築設計事務所に勤務
- 1978年 1級建築士を取得
- 1979年 新潟市内に建築設計事務所を開設
- 1984年 同市内に工務店を共同経営
- 2007年 新潟市内の尼寺に入り、愛知の尼僧堂で4年7カ月の修行を経て僧侶へ
- 2012年 新発田市菅谷に布施庵を開く

編 集 部

— 今は何を中心にお働きですか

自殺防止ネットワークをメインの活動にしています。後で述べますが、僧侶になった契機はわたし自身の弟が自死を選らんだという衝撃からでした。「自殺防止ネットワーク 風」メンバーにインターネットで登録されているので、全国から電話相談が来ます。

新発田市老人クラブの副会長をこの四月まで務めました。「新発田市生活と健康を守る会」の事務局長を三年前からやっています。

名刺には次の四つを記しています。曹洞宗僧侶、介護福祉士、一級建築士、放送大学生。他に、「癒しの寺 布施庵」「寺子屋 ありがとう」。でも普通の民家に外見は見える四五坪の平屋建ての一軒家です。

生活と健康を守る会では、私が講師になりある日の夕食を十数人で、お米の研ぎから始め数種のおかず作りをして、秋の晩餐を楽しみました。男性には特に好評でした。生活には食が大切です。私は、無農薬・有機肥料のみのお米を取り寄せ、玄米食で同じく無農薬野菜は自分で作り、いただいています。メインの活動は自殺防止相談で、いっそう深刻になっていると実感

しています。

自殺だけでなく多様な相談が寄せられます。殆どが電話です。本当は全身を見つめあう関係で相談するのがいいかもしれません。布施庵は、山地に近くわざわざ訪ねてくる人は多くはありませんが、長い時間話し合い、相手から「話を聞いてもらって良かった」と言われると、こちらもうれしいです。

でも余りに深刻な話は、電話という器械を通してのほうが話しやすいのも事実です。

その他、先日柏崎であった「原発なくして」の集会「憲法を守れの学習集会などにも参加しています。若い時から建築の仕事をよくするにも、社会や地域とのかわりが必要と、親子劇場、PTA活動、ママさんバスケットボールなどやってきました。

二 建築士になるまでと成ってから

私の生家は、中山間地の米作とタバコ栽培農家でした。父は毎年一月から三月まで大阪の建築会社に出稼ぎしていました。その会社に気に入られて、常勤社員のごとく厚生年金をかけ続けてくれました。老年になって厚生年金が支給される稀な人でした。

大阪には女性の建築士や技術を持ち男性に伍して働く人たちがいると認識し、我が娘にもそうさせたいと、高校の建築科に進学させました。私はそれについて何の知識もなかったのです。

家から学校までは十数キロの道のりを自転車で行きました。道路は、未舗装が大部分でしたから車とすれ違つと白シャツが黄ばんでしまいます。三年間でどれだけ衣服を洗濯したことが。

タバコづくりは、米よりも反当収入は高いが、人手は何倍も必要で朝早くからの重労働でした。しかし、砂丘地の築地（現胎内市）では広いタバコ畑に機械が入り、葉の乾燥も石油を使い短時間で完成でした。学友の家での見聞を父にしたら、この山地では太刀打ちできないと農業に一層の不安を持ちました。

高校卒業するとすぐに新潟市内の建築設計事務所勤めまして、三力所ほど変わり腕を磨きまず二級建築士を取得。

さらに実務経験を積み四年後に一級建築士を獲得しました。難関な国家試験ですが、実地で学んだことが活かされたでしょう、女性では少ない例になったようです。二三歳で結婚して五年ほどは子宝に恵まれなかつ

たのも幸運かも。夫も家事など協力してくれましたし。学習は、本人の意欲が大事ですし、文字だけでなく実務から得ることが大切です。その点で今の学校教育は机上の知識が幼児のころから重視され、実生活や自然からの学びが不足だと思います。

十八歳で就職した夏、下越地方に大雨が降り大災害になったときです。新潟市内では災害はなく、菅谷の実家の辺りはひどかったのです。今のように携帯電話などないし状況が分からず心配でした。

社長が車で大回りして中条（胎内市）の工場視察に行くというので、真剣にお願いして同乗させてもらいました。菅谷近くで降りて歩いて実家に向かいましたが、田圃に大きな岩がごろごろと転がっている。水害の巨大な力に圧倒されました。

建築士の仕事は天職だとも思える経験でした。家々も大きな被害を受けていました、それらの復興には私の力が大いに役立ったからです。

それ以降は下越地方には風水害の大きなものはありません。大雪害が数十年前に逢ったきりです。

二八歳で長男を、年子で二男を出産しました。それからは核家族で子どもを乳児園に預けて働くなど、奮

闘しました。三〇歳を機に独立してさらに四苦八苦の努力でした。大きな会社に勤めてマンションや豪邸を任されていたのに独り立ち。住宅一つに絞る営業から始めます。大工さんに当たり、建築確認申請手続きの仕事をやらせてもらいました。

営業のノウハウを学ぶため、不動産屋に営業マンとして雇ってもらい土地を売買して四カ月、次は辞典セールスを四カ月、そして生命保険の外交員を五カ月やり営業を身に着けました。

いいパートナーを見つけ、工務店を共同経営することになりました。工務店経営は、設計、施工、管理、保全、折衝など多岐にわたります。家を建てるには一六の業種を束ねてあたります。従業員も十人余になり、八歳年下の弟もその一人になりました。

二〇〇三年でした、子どもの頃からかわいがつてきた弟が自死を選びました。四七歳でした。生活や仕事のことですごく悩んでいたようでしたが、私は建築士としてどんどん働き、人の悩みや弱音など聞くのは嫌いでした。

弟にも「自分の人生なんだから自ら切り拓きなさい」と相手に沿うような言葉も態度も取りませんでした。

行方不明になった弟を最初に見つけたのは私でした。亡骸になった彼の周りにはタバコの吸い殻がたくさん落ちていました。おそらく死と生をいきつ戻りつしながら吸い続けたのでしょう。衝撃でした、なぜもつと心を開いて相談に乗ってやれなかったのか、問い続けました。

三 建築士から僧侶へ、その後の活動

弟の自殺の体験から「思い悩む人の助けになる仕事をしよう」と決めました。二〇〇七年に市内の尼寺に入り、のちに愛知の尼僧堂に入りました。ここで四年七カ月の修行を果たしました。

愛知の尼僧堂は、今はここがただ一つになりました。かつては県内の魚沼市小出に曹洞宗が作った尼僧堂があったのですが、希望者がなく廃止になっています。

名古屋市内の大きな寺の多くは、境内を駐車場やマンションに切り替えて、墓地を山手に移し経営していました。いわゆる葬式仏教になっているのです。曹洞宗の開祖、道元さんの教とは真逆の方向で、学園の師僧もこれではいけない。せめて名誉・利益に疎い尼僧たちが道元の教えを護持しようと私たちを説きました。

金儲けが命の現代資本主義は宗教界も例外ではありません。心ある宗教者がもつと声をあげないと、既成宗教は存在意義を見失ってしまうでしょう。山間地のお寺などすでに存立さえ怪しくなり、後継者がいなくなっている問題に直面しています。近辺のお寺は檀家が三、四軒というのがありますが、それではお寺を支えられないです。

ゆっくりではありますが、変化しています。葬儀も家族葬とか大都市部では直葬といつて、通夜も告別式もなしに火葬にふす形が増えているそうです。孤独死という表現は不正確で、孤立死のほうがいいと思います。人はだれしも孤独で死へ旅立ちます。

誰にも看取られないで去るのは、日常の暮らしが孤立しているからでしょう。その様な生活を少なくしていく助けを僧侶としてつとめています。社会的な運動や料理教室などの講師をやるのも天職だと考えています。

建築士の仕事も好きで天職でした。今でも資格がありますから、住宅建築・リフォームなど相談に乗っています。住宅は健康な生活の条件です。風水害、地震災害などは地球温暖化のもとで日本列島には頻発して減少することはありません。

心の相談については、守秘義務を課して、具体的な事例は申しませんが、夫婦間の悩み、仕事上のトラブル、身体の不調とさまざまです。布施庵開設以来なら一千件くらいの相談に応じました。三年ほど前にある若い男の人が、「ボクはこれから死ぬ」と電話してきました。懸命に引き留めました。しばらく心配していましたが、「まだ生きていますよ」と電話があり、心底からホッとしました。

「自殺防止ネットワーク 風」は県内では村上の同じ宗派の野田和尚がメンバーです。佐渡と上越の二カ寺を入れて四カ寺のメンバーです。もつとお寺や神社が参加してもいいのではと思います。

柴山昌彦文科大臣が、憲法や歴史を無視した発言をして怒りました。東京大学で何を学んだのかと。教育勅語が戦前どのような役割を果たし、戦後すぐに国会で失効決議がなされたことくらい知らないはずがありません。

さすがに宗派を超えた宗教者が十月十八日、同氏に発言の撤回と辞任を求める共同声明を発表し、国会内で集会を開きました。呼びかけ人は、臨済宗相国寺派管長の有馬頼底さん、カトリック東京教区大司教の菊

地功さん、日本キリスト教婦人矯風会理事長の飯田瑞穂さんら五三人が名を連ね、日本キリスト教協議会総幹事のキム・ソングエさんが主催者挨拶をしました。

最近、九州電力は太陽光発電をよく止めています。原発を稼働して電力が余っているためです。電力は分散して小規模発電が安全で先の北海道のような全道の電気がダウンすることは防げます。私の住んでいる中山間地には太陽光発電に適した土地がいっぱいあります。

それを地域に開発すれば、地元の需要を賄い他に売ることが出来ます。過疎化が進むこの地方を活性化する起爆力になるはず。

一人ひとりが、自分の頭で考えて政策を吟味して政治にかかわるようになれば、未来はありません。そのように個人を尊重した教育が行われていません。私の庵から目の前に「ヴィラ菅谷」という老人福祉施設が見えます。かつてはそこには小学校が、建っていません。母校でもあるのです。今は菅谷には中学校がなくなりました。小学校ももうすぐなくなりそうです。

経済的観点から減らしたのに、小規模校では切磋琢磨ができず将来は世界に羽ばたく人になり得ないなどという宣伝に若い親たちがなびいてしまい、統廃合が

実施されました。

四 伝えたいことなど

新発田市のいわゆる中心校で中学生の自殺事件がありました。昨年の一学期内でいじめによるものと、市で作った第三者委員会が認めました。最近の報道で明らかになったのは、この四月に就任した教育長が当事者の父親に「お前も明日の保護者会に出るのか」と聞き、不適切な行爲を批判されて辞任しました。

教育長は、父親が小学生だったころの担任教員でそれが頭をよぎり、つい言葉づかいを間違えたそうです。ここから見えるのは教員の「上から目線の態度」ではないですか。六〇歳代の公職にある人がそんな態度でかつての教え子に接するとはどういうことでしょう。

教員を始め教育に関係している人たちは、世の中の現実をもっと見つけてほしいと思います。子ども食堂にもかかわっています。自分が樂をしたいために利用しているかの母親を見かけます。本当に貧しくて食事が必要な子どもが来れない現実があります。その地理的な位置や世間の目を気にしてかも知れませんが、これは一例です。少し視点を変えて見詰めれば、これ

に似た事実がたくさんあるのが分かります。私への相談には恐ろしいほどの現実の様相が見られます。

私は僧侶ですから、すべての人に「無財の八施」を提案しています。布施とは、「慈悲の心をもって、他者に何らかの施しをすること」です。①眼施Ⅱ優しいまなざしで人を見る、②和顔施Ⅱにこやかな顔で人に接する、③愛語施Ⅱ愛のある言葉で接する、④身施Ⅱ金がなくても身体で奉仕する（ゴミ拾いでも）、⑤心施Ⅱ他者に思いやる心配り・共感する、⑥牀座施Ⅱ人に席を譲ること、⑦房舎施Ⅱ人に一宿一飯を施すこと、⑧傾聴施Ⅱ人の話を共感して聴いてさし上げる。

この八つならお金がなくてもできる布施行です。日常の暮らしの中に修行があるというのが、禅の思想です。曹洞宗の開祖、道元和尚は掃除、食事作り、などを座禅と同様に大切にしました。時の政治権力にはきびしく対処して、北条時宗の鎌倉への招請は拒絶して、宗教と政治にけじめをつけました。

安倍自公政権の靖国神社利用の政策は憲法に違反するのみならず、戦死者の遺族への冒瀆でもあります。心の問題を大切にする政治を求めたいと、微力ながら日々、布施行につとめています。

(文責・吉田)